



平成21年第1回定例議会は、3月5日から19日までを会期として開催されました。新年度予算の一般会計は50億6千6百万円。7特別会計22億6千7百万円、総額73億3千3百万円が予算審査特別委員会（葛原昇委員長）に付託審議され、委員長報告の通り認定されました。予算審査特別委員会の初日は日曜日開催され、多くの町民の方が傍聴に会場されました。

平成21年度一般会計予算は、

# 予算

住民生活に密着した緊縮予算編成

一般会計は50億6千6百万円（前年度当初比3.5%減）。特別会計を合わせた総額では73億3千3百万円（前年度当初比1.4%減）の予算を可決しました。歳入のうち、町税は個人所得税などで6億7千6百万円（前年度当初比2.3%減）、地方交付税は23億9千万円（前年度当初比1.3%増）の見込み。

歳出では住民生活に密着した行政需要や産業基盤整備に重点がおかれ、瓜幕地区の公営住宅建設（1棟3戸）に4千4百万円、今年度を地域力創造元年と位置付

け、ものづくりや、これを促進するための講習会に助成する「地域力創造活動事業助成金」に2百万円、通明小学校や瓜幕中学校の暖房機取り替えに2千6百万円。幼稚園、保育所、小・中学校の給食費を据え置き、材料費高騰分を町が負担するとして2百85万円等の予算編成内容。

3月15日（日）に開催された予算審査特別委員会では、総務費・衛生費・民生費等の住民生活に関わりのある費目の質疑が行われ、17人の町民が傍聴に訪れました。

議会では、更に皆さんに広く議会活動を知っていただく機会を設けるよう努力を続けます。





## 行政執行方針

世界的な景気後退の中、地方自治体が取り組む課題はますます多岐に亘る事が予想されます。

平成21年度は、限られた財源の中で、新たな行政課題に的確に対応、町民のニーズにこたえるべく既存事業の見直しを図る中で予算を編成致しました。



田弘志町長

基幹産業の農業をはじめ、医療、福祉、教育等各分野において町民の負託に応えるべく職員一丸となって創造力を働かせ地域の生活力が高まるよう邁進します。

## 教育行政執行方針



白井あや子教育委員長

小中高一貫教育の滑らかな接続を図るため継続の英語「カナタ学」と新たに環境問題を主眼とした「地球科」のプログラム作りに取り組んで参ります。

教育委員会の目標としては、

一つには、個性を伸ばし生きる力を育てる鹿追ならではの学校教育の推進。

二つには、自ら学び行動する人間の形成と心豊かな地域社会を目指す社会教育の推進を大きな柱として取り組んで参ります。

## 条例制定・条例の一部改正

トリムセンター内の浴室利用の料金を、町内高齢者は「190円」（火曜日及び金曜日は無料）を「210円」に、一般の利用料「380円」を「420円」に改める鹿追町トリムセンター設置条例の一部改正や、然別湖のオシロココマ等の中学生以下の遊漁料を「2千円」から「1千円」に改定、又遊漁時間を「午前5時から午後5時（従来午後2時）」までと時間を延長する然別湖漁族資源保護条例の一部を改正しました。又、役場職員の勤務時間に関する条例も改正され、週38時間30分勤務となりました。これにより、役場の開庁時間が8時30分から17時30分であったのが8時30分から17時15分と変更になります。

その他12の改正及び新設条例を可決致しました。

## 請願

「陸上自衛隊鹿追駐屯地の維持拡充を求める意見書」が可決され関係諸大臣へ意見書を提出致しました。

この意見書は3月1日に開催された陸上自衛隊鹿追駐屯地の維持拡充を求める町民総決起大会の決起声明を受ける形で提出され、この趣旨で鹿追駐屯地及び自衛隊帯広旅団にも要望運動を行ってまいります。

固定資産評価委員に坂本圭三さんの選任を同意

3月29日に任期満了となる坂本圭三さん（仲町2丁目）の選任（再任）提案があり、これに同意しました。

人権擁護委員に葛西節子さんの推薦を同意

葛西節子さん（仲町4丁目）を人権擁護委員として推薦する提案があり、これに同意しました。

1月22日に開催された第1回臨時会では、鹿追小学校屋上防水工事や町営牧場パドック改修工事、消化液等高度利用試験事業委託料など2千4百7万1千円を追加しました。

2月13日に開催された第2回臨時会では、定額給付金給付事業や地域活性化・生活対策支援給付金事業など2億7千94万4千円を追加、又「北海道の自衛隊体制維持を求める意見書」を可決、関係団体へ送付しました。



2月26日に開催された第3回臨時会では、鹿追町くらし応援商品券発行事業補助金1千75万円を一般会計に追加しました。

# 平成21年度主要事業

## 住宅建設奨励に 1,000万円

鹿追町内に新たに住宅を新築する町民又は転入者に対して100万円を限度とし、1当たり1万円を商品券で助成。ただし、町外業者による施工の場合は50万円が限度。19年度までに142件の該当件数がありました。新規に介護保険法、障害者自立支援法に規定する住宅改修を行う方に32万円を限度に商品券で助成される制度が設けられました。

## まちづくり事業に 1億3,928万円

緑町3丁目日本通り歩道整備  
新町本通り歩道整備  
農芸公園整備  
白樺区児童公園整備  
鹿追小学校施設整備  
瓜幕東仲通り整備  
芸術文化活性化事業  
その他

町内の道路、歩道整備。鹿追小学校のホール屋根の劣化部分の改修工事や町民ホール実行委員会事業、馬の絵作品展、展覧会事業。「花と芝生の町づくり事業」の拠点として期待される農芸公園整備などの事業が行われます。



## 子育て支援に 312万円



子育て支援センター運営  
発達支援センター運営  
妊婦一般健康診査助成拡充  
赤ちゃん離乳食訪問事業  
その他

昨年5回実施していた妊婦一般健康診査を今年度は14回実施の予定。又、新規に赤ちゃん離乳食訪問指導を事業化し子育て支援を充実させました。

## 鹿追高校カナダ短期留学と修学資金貸付に 3,769万円

平成21年度で第14回を迎える鹿追高等学校カナダ短期留学派遣事業に約2,064万円。今年度は留学期間13日間の食事代相当分として受益者負担が2万円となります。

又、鹿追高校を卒業し4年生大学に進学をした者を対象とした修学資金を、短期大学及び専修学校の入学者も追加し事業費を約1,700万円としました。





狩野正雄議員

**Q** 温泉群の有効活用でシンボジウムを

**A** 大きな課題と認識

**(質問)**  
全国の温泉ファンに良く知られている、かんの温泉は昨年10月より営業を中止しています。営業再開の予定と降雪などで温泉施設に被害を受ける事も懸念されますが、現在の状況は。

**(答弁)** 田町長

然別峡温泉群は明治40年に発見されて以来、今日まで秘湯の地として全国に紹介され利用されてきました。かんの温泉は、現在営業を中止しておりますが、町民にとりまして、永年親しまれてきている温泉であり、本町の観光資源として貴重なものであり、早い再開を願っています。

**(質問)**

然別峡温泉群の泉質の良さは、昔から病気や慢性疾患に効能が高いと評価されています。健康保持の保養地に着眼した再開発プランは。



**(答弁)** 田町長

私もそうした考えについては同感です。これまで湯治場として多数の方が利用されてきました。今後につきましてもクワハウスなどの設備や、健康保持、医療、福祉という点から高齢者社会の有効活用について検討してみたい。

**(質問)**

有識者を招いて温泉活用シンボジウムを開催する考えは。

**(答弁)** 田町長

北海道には温泉博士もい

ます。

有識者を招いての研修や、情報を得る事は必要であり、これらの有効活用も鹿追町として今後取り組むべき大きな課題として認識しております。

**(質問)**

国民健康温泉ルートとしての地域間の連携や協力は。

**(答弁)** 鳴海商工観光課長

北十勝観光振興の事業計画の中で盛り込みをしていきたい。



埴淵賢治議員

**Q** 公の施設を鹿追高校の女子寮に活用しては

**A** 関係機関と調整をはかり検討します

**(質問)**

町は、道立高校でありながら地元高校への熱意と併せて住民組織、教育関係機関の弛まぬ努力が功を奏し、

鹿追高校の存続へ繋がっています。

今日の教育環境は決して容易ではなく少子化又は十勝一元化等々の課題が山積みしており、その状況に対し鹿追高校卒業生に4年生大学進学生への修学資金貸付制度の導入、更に短期大学、専修学校等への入学一時金として支援。特色ある鹿追高校の存続にあたり、男子寮同様、女子寮の開設が望まれます。

今後実現に向け、調査研究が不可欠であります。教育委員長の所見を伺います。

**(答弁)** 白井教育委員長

小子高齢化が加速する現状下で、町内の中学3年生の推移は、平成21年度は53名、以降59名、49名、平成24年度47名と減少傾向が予測されます。

鹿追高等学校の二間口確保は本町にとって大変厳しい課題であり、町外からの入学者の確保が重要になってきます。平成24年度の47名の中学卒業生では80%の

入学率としても37名の入学者数となり1学級の定員にも満たない事が予想されます。ご指摘の女子寮については今後に向けて、関係機関とも調整をはかりながら検討させていただきます。



**(質問)**

町の小中高の連携、一貫教育の取組みは全国的にも珍しく、高い評価がある。PRも含め、二間口堅持する方向で一層押し進めていきたい。

**(答弁)** 森末教育長

鹿追高校の良さをPRしていくことについては、今後も検討しながら広く進めていきたい。女子寮については、今後調査にあたって町長からも指示をいただいている、アンケート等々をとりニーズ等を把握し進めてまいります。



加納茂議員

**Q** 本町の教育方針について

**A** 学校・家庭・地域の連携協力を強化し推進

(質問)

人材育成の重要な教育機関である鹿追高校の存続問題において、その生徒数の減少への対処をどう考えているのかお伺いします。

又、高校の進学指導において、都市部との教育環境の差を埋める取り組みは行われているのでしょうか。家庭教育の指導と学校との



連携が重要視される中、その取り組みをどう考えますか。  
次に、児童生徒の体力の問題及び携帯電話、いじめの実情と今後の教育推進について伺います。

(答弁) 白井教育委員長

鹿追高校の生徒確保の問題ですが地元卒業生の確保が必要です。連携型中高一貫校とはいえ、まだ全員が鹿追高校への進学とはなっておりません。鹿追高校は「夢が叶う学校」であることもしっかりPRしてまいります。

更に、他町からの生徒の確保が重要です。意欲を持つてくる他町からの生徒が最近増えている事は高校の先生方の努力が評価されている結果ともいえ、有名私大への推薦枠の確保や大学入試への進学指導を個別に行うなど意欲的に取り組んでおります。

家庭教育の推進への取り組みについては、学校・地域・保護者が一体となって取り組みを強化する必要があります

あります。家庭学習の奨励を積極的に呼び掛けているところです。

児童生徒の体力については、本町の子供達は全道平均と同様の結果が出ていますが、体力の向上に努めてまいります。

ネット書き込みなどの携帯電話・コンピューター等いじめ問題については、各学校に注意を促すと共に、家庭における指導もお願いしているところです。



飯沼新吾議員

**Q** 人事異動に伴う引き継ぎの円滑化を...

**A** 特に停滞はしていないが、更にスムーズな引き継ぎを図ります。

(質問)

町政の執行に当たり職員的人事異動は、欠くことが



(質問)

次に、前任者の完全引渡義務と引渡後の責任の明確化についてお伺いします。

(答弁) 田町長

特に問題はないが、個人情報に拘わるデータ等の完全引渡は、通常業務でセキュリティ対策の手引きにより周知徹底を図っています。

(質問)

引継ぎ立会人の選任と立会者による引継ぎ内容の確認について。

(答弁) 田町長

必要に応じて上司の立会等で対応をしています。

(答弁) 田町長

特に様式は定めていませんが、行政規則の内容により引継いでいます。建物、埋設物(上下水道等)の図面等は重要な書類であり今後は集中管理する様に検討中です。





安藤幹夫議員

**Q** 持続的な新エネルギーの利活用は

**A** 研究を継続致します。

(質問)

原油・穀物の高騰、WTO(世界貿易機関)交渉での自由化要求と農業にとって厳しい状況の中、環境保全センターの今後の運営の在り方について、持続的にかつ安定的に推進を実現する為には、原料の確保と人材の育成が肝要と考えます。保全センターから出る副産物の有効利用の研究検討を進めながら、いち早い実用が必要と考えますが、持続可能な開発を、今後関係機関、教育機関とどのように連携を進めていくかお伺い致します。

(答弁) 田町長

環境保全センターの持続的安定運営の推進に関わる、

原料の確保と人材育成については、将来飼養頭数を確認し利用組合とも相談しながら地区外利用も検討したい。

人材育成では、現在3名の職員で運営していますが、堆肥製造委託など新しい事業も計画されていますので、今年4月から臨時職員2名の増員を予定しています。



施設の管理運営や利用者との調整など運営を考慮した人員配置を考えています。

副産物利用については、液肥・堆肥の有効活用試験は実施されていますが、商品化に向けさらに実証実験も行います。ガスや熱については国の調査研究事業を導入し、検討して実用化に向けて考えます。

環境に配慮した持続的な資源開発としての考えは、

エネルギー安全保障の観点からも持続可能なエネルギーの開発は緊急な課題として考えています。環境保全センターでのガス利用は現在は電気に変えての利用ですが多様な開発活用が不可欠である事から、更にカロリー性の高い原料の確保と試験を積極的に行いたい。関係機関との連携は、営農指導対策協議会等をはじめ継続して協議していきま



台蔵征一議員

**Q** これからの観光振興は

**A** しかおい・うりまく道の駅を拠点に推進

(質問)

これからの観光振興策を考える上で、道路の有効活用をはかり、景観を楽しむながら観光施設を巡るコー

スをいくつか考えてみてはどうかと思えます。地域資源の活用と地域力を生かしていく必要があると考えますが、以下の点について町長の所見を伺います。

町をガイドできるプランはどこまで進んでいるのか。その拠点づくりとガイド育成の考え方は。

通年営業を目指す道の駅の活路は。

シーニックバイウェイ北海道のビューポイント整備の考え方は。

(答弁) 田町長

現在鹿追町でガイド活動に取り組んでいる団体は、農業ガイドが3件、自然ガイドが6件、乗馬ガイドが3件、花の町ガイドが1件です。これからのガイド育成については、先進地に学びつつも需要に応じた更に必要とする体制を作っていく予定です。これら活動の拠点は、しかおい・うりまくの両道の駅を考えています。

道の駅しかおいは21年度から通年営業を目指しており、道の駅うりまくは状況を見な

から通年営業に取り組みと伺っています。町としての観光案内は1年を通じて必要と判断しており、両道の駅と協力連携した中で協議を進めていきます。

「十勝平野・山麓ルート」における鹿追町内のビューポイントですが、瓜幕市街から土幌間の26号27線の交差点付近に計画されています。



ビューポイント付近の景観

この場所からの夫婦山や土幌方面への直線道路などの景観が素晴らしいとして選ばれたものです。案内版などの整備は必要と考えており、関係機関と連携を取りながら設置できるよう進めていきます。

# なる？ どうする！

医療等調査特別委員会はこう考えました。

18回に及ぶ委員会、2月に実施しました歌志内市立病院等の先進事例の調査を通じ、病院のあり方を次の通り考えました。

病院施設の整備には、住民（患者、家族）ニーズ、医療サービス、病院スタッフの効率的な機動性が必要、更に次の事項の検討が必要です。

## 外来診療

患者の動線を第一に、施設内全部がフラットで、明るく機動性がある事が必要。また、採光、照明、臭気、音、換気、温度、湿度への配慮やプライバシーが保護される仕組みが大切である。



## 入院治療

ナースステーションを中心にスタッフが患者にすみやかに対応出来る配置を基本とするか、入院患者が使用する共同トイレと洗面所を中心に配置し患者の動線を短くするか検討が必要。病室のトイレは患者の病状により必要があり、一部病室に設置し、共同のトイレは高機能性とし、車椅子と障がい者対応のトイレも整備が必要である。



## 病院増改修

建築士と現場職員が機能性について十分検討する事が

重要である。本町立病院の増改修は町財政に見合ったものとし、病診連携等のソフト面の充実を図ることで安心と信頼を得る事が大切である。

良い病院は、ハードだけでなくスタッフの意識等（ソフト面）により評価され、親切的対応、清潔な環境、経費の削減等が求められる。

## 病診連携

地域に有する医療施設、医療機器、医療技術、更には患者情報を病院と診療所が共有し連携医療を図り、患者に便利で安全安心な医療提供を行う事が地域医療の究極とするものであり、現実的には中心となる関係者の熱意と協力体制なしでは実現できない課題である。

## 電子カルテシステム

患者情報の共有化、カルテのIT化、診察の迅速化など患者及び病院の管理に今後欠かす事のできないシステムである。本町立病院でも設備費、ランニングコスト等から導入可能か検討を要すると考える。



委員会のこれらの考え方も含め、最終報告（次ページ掲載）としてまとめ、4月13日の臨時議会に報告、更に議会として町の福祉行政の推進のため報告に沿った内容を決議致しました。町では最終報告の内容を踏まえ、更に検討を加えていく予定です。

# 町の病院はどう

## 医療等調査特別委員会報告（最終報告）（抜粋）

報告書全文は町ホームページの「議会」の「広報」欄に掲載しています。

患者の診療及び入院の受け入れ面と健全経営を目指すための医療施設の整備については、住民の利便性からも現在地で患者の医療環境向上を図った現町立病院を増改修することが最適であると考えます。

### 現病院の増改修整備

町立病院は、町民にとって医療の拠りどころであり、多くの町民、患者、家族が安心感を共有している。その結果、現町立病院を増改修し整備することが望ましいと考えます。

また、その増改修に係る整備要望（前ページ掲載）については、その実現に最大限の検討を期待する。

### 病院運営

常に最良の経営方法の模索、研究、改善を心掛けて鋭意努力することを望む。

### 包括ケアの推進

町の保健、福祉、医療、介護の一体的連携は必要であり、町内における包括ケアシステムによる推進と各医療施設との連携を図ることが必要である。

### 高齢者住宅等整備

町立病院に併設の形で整備する医療機関連携型の高齢者専用住宅と自立生活支援センターについては、その計画の推進を支持する。

### 町民福祉の増進

現在の町国民健康保険病院は施設の老朽化が進み、施設基準（耐震基準）面での補強が必要な状態にある。住民の福祉向上のためにも医療施設の整備を図る必要がある。

### 高齢者の入院需要増加

高齢化率の増加と伴に診療、通院・入院患者が増えてきている現状から、現行病床数の50床は必要である。

### 健全な病院経営

自治体病院として不採算部門を担い、実態として自主運営の困難さに繋がっている。常に経営の健全化を目指したためまぬ経営努力が重要である。

